

（セッション NO. 8）「広野町から考える、これからの農業と地域づくり」

○開催日時：平成27年9月17日（木）09：00～12：00

○場 所：広野町中央体育館アリーナ

○パネリスト、コンビナー：（敬称略）

・パネリスト：渡邊正俊（町議員、土地改良区役員）、新妻良平（認定農業者、企業組合ひろの）、横田和希（認定農業者、町農業委員）、鈴木正範（NPO 浅見川ゆめ会議理事長）

・コンビナー：林薫平（福島大学経済経営学類）、小松知未（福島大学 FURE）

○参加者数 約60名

○概 要

・導入として、コンビナー林より、「広野および南双葉地域の農業の概況—歴史と現在、震災復興」と題して昭和期からの広野および南双葉地域の農業、農協、県農場、土地改良等の歴史を概観し、広野小唄や愛唱歌「汽車」に歌われた田園風景や、西の沢溜池の整備とミカン植樹の取組み等について共有した。

・次に、トーク「広野町の農業の再生と、農地・水資源の回復に向けた実践と、その想いを語る」と題し、渡邊正俊さんから、「先人から引き継いだ農地と水資源を守っていく理由」、新妻良平さんから、「広野町農業をどう継承し、どう発展させていくか」、「企業組合ひろの—広野米の販売促進と農産物加工（味噌、みかん）」、横田和希さんから「私の水田農業経営のビジョン」、鈴木正範さん「農地と水資源の保全活動—浅見川ゆめ会議の紹介」と題してそれぞれの農業と地域づくりに掛ける思いを語っていただいた。

・第三に、共同コンビナー小松知未より、「福島県内の食と農の再生の最前線」と題し、霊山町小国地区の住民の農業発展・豊かな食づくり・美しい景観保全についての協議の経過を詳細に解説し、また、県内の食と農の再生に向けた代表的な取り組み事例を紹介した。

・第四に、会場の参加者からの発言を求め、4人のパネリストとコンビナーで議論を深めた。挙がった論点は、広野町の新たなブランドとして、特別栽培コシヒカリを打ち出していきたいこと、今年度大きく伸長した「ふるさと納税」が励みになっていること、特別栽培のためには有機質の肥料が必要で、堆肥センターを町で整備することは検討する価値があること、ミカンの北限の町としての広野町の魅力を再発見すべきであり、企業組合としてもミカンの加工品を工夫して作っていきたいこと、浅見川・折木川・北迫川の環境や、誇るべき美しい里山の景観を住民の協力で守り、かつ、そこで生まれる栗やミカンや川魚を町の魅力ある特産品として地産地消から広めていきたいこと、復興のために、住民で様々な議論を交わして、参加型の地域づくりをしていきたいこと等。